

報 道 資 料

令和3年 5月31日
政策推進課広域調整係
中野、藤本
内 線 2121、2125
ダイヤル 0742-27-8306
F A X 0742-22-8012

第108回近畿ブロック知事会議に係る知事発言要旨について

5月31日（月）に標記会議が開催されました。会議の概要、荒井奈良県知事の発言要旨は、下記のとおりです。

<会議の概要>

- ・新型コロナウイルス感染症対策に関して、各地域の対応状況を共有、国への要望等に関して意見交換を行った。今回の意見交換を踏まえ、国への緊急提言をとりまとめることとなった。
- ・国への提案要望に関して、「こども庁創設について」（本県）や「脱炭素社会の実現に向けた取組の推進」（三重県）、「産廃特措法失効後の安全性の確保に向けた取組への財政支援」（福井県、滋賀県）などについて提案があり、意見交換を踏まえて、今後国への提言としてとりまとめることとなった。

<荒井知事の発言要旨>

○新型コロナウイルス感染症対策について

- ・奈良県の感染者の推移であるが、大阪府の10分の1の規模で推移。大阪府が下がれば奈良県でも下がり、大阪府の緊急事態宣言の効果が、奈良県にもいい影響を与えている。緊急事態宣言後、大阪での一次感染がなくなってきている。
- ・また、兵庫県は大阪府の4割で波形が一致、京都府と滋賀県は大阪府の一週間程度の遅れで推移、和歌山と徳島県は大阪府の30分の1で波形が類似、愛知県と岐阜県は波形が類似している。
- ・近畿府県の感染状況を市町村ごとに分析すると、鉄道沿線で感染が拡大しており、緊急事態宣言など府県域で対策を講じることに疑問を持ち始めている。府県域を超えたエリアを対象にした対策が必要ではないか。
- ・重症者の統一的なデータがないため、感染者から重症者等に移る道筋がはっきりしない。本来は国がすべきことであるが、近畿ブロックでもデータの分析ができないか強く思っている。

○「こども庁」創設について

- ・未就学児童の育成については、教育と社会保障の狭間にあったように思う。教育では義務教育の外となり、社会保障の中では社会福祉の分野となり一番遅れたと思う。社会福祉では、高齢者が中心で長命化が進んだが、子どもが後回しになり少子化が進んだと思う。
- ・子ども対策の体系が十分にできておらず、その影響もあり財政支出の水準が低い。また、縦割りの弊害があり省の目標はあるが国の目標がない、地域の目標はどうするかという課題がある。
- ・こども庁の創設にあたっての考え方として、子ども育成に関する基本的な考え方を明確にしたい。子どもの権利保障といったかたちで、子ども施策を積極的に位置づけできないか。就学前教育を含む教育振興大綱を知事がつくれるようになり、地方分権の対象が子どもの教育にも及んでいる。地域主権の観点からも地方の役割を積極的に認めていただきたい。

○脱炭素社会の実現に向けた取組の推進

- ・地方でもできるような具体性、実効性のある取組を進めていきたい。それには、再生可能エネルギーが中心になると考えている。シュタットベルケのようなまちづくりと一緒に進めていきたい。
- ・また、原発をどうするかが一つの大きな課題である。それを念頭に置きながら、水素発電をどうするのか。国のプロジェクトになるかと思うが、水素発電は大変将来性がある。それを国に要望していくことがいいのではないかと思う。
- ・もう一つは、地上の太陽光発電ではなくて、宇宙の太陽光発電というアイデアがある。衛星を打ちあげて、宇宙に太陽光パネルを設置し、太陽のエネルギーを宇宙で受けて、地上に送るというものである。
- ・日本がイノベーションを進めるときは、水素発電とか宇宙での太陽光発電とかいうものを提唱する必要があるように思う。そのような大きなイノベーションを推進することを国に求めてはどうか。

○北陸新幹線の早期全線開業

- ・高速鉄道網については、地域が良くなるよう新しい知恵が必要。
- ・まだアイデア程度だが、リニア中央新幹線を伊丹まで延ばしてはどうかと思っている。
- ・また、奈良市附近駅から在来線で関空につなげるという構想も考えている。新しいネットワークのパターンにもなる。
- ・リニア中央新幹線という大きな幹にどう枝を接続するのかという発想。
- ・以前は、あらゆるところに新幹線を走らそうという発想であったが、そこからどう脱却するのが鍵となる。